

(社) 日本原子力学会 標準委員会
第 38 回 原子燃料サイクル専門部会 (FTC) 議事録

1. 日時 2009 年 5 月 26 日 (火) 13:30～16:35

2. 場所 (独) 原子力安全基盤機構 本館 9G, 9F 議室

3. 出席者 (順不同, 敬称略)
(出席委員) 田中 (部会長), 駒田 (副部会長), 加藤 (和) (幹事), 阿部, 有江, 猪俣, 内山, 金木, 加藤 (正), 川上, 坂下, 白井, 高橋, 木村, 深澤, 堀川, 前川 (17 名)
(代理出席委員)
大久保 (荒木代理), 松崎 (有富代理), 杉山 (仲神代理), 山本 (新堀代理) (4 名)
(欠席委員) 井口, 森山, 近藤, 松尾, 小佐古, 中島 (6 名)
(欠席常時参加者) 菊池, 宮川 (2 名)
(説明者) 中瀬 (LLW 廃棄体等製作・管理分科会), 吉原 (LLW 埋設後管理分科会) (2 名)
(傍聴者) 柏木, 片寄, 鯉淵, 山田, 安井 (5 名)
(事務局) 岡村, 谷井

4. 配付資料
FTC38-1 第 36 回原子燃料サイクル専門部会議事録 (案)
FTC38-2-1 人事について (専門部会)
FTC38-2-2 人事について (分科会)
FTC38-3-1 「余裕深度処分対象廃棄体の製作に係わる基本的要件 (案)」の標準委員会の書面投票結果及びその対応について
FTC38-3-2 「余裕深度処分対象廃棄体の製作に係わる基本的要件 (案)」標準案
FTC38-4 原子燃料サイクル専門部会書面投票結果
「使用済燃料中間貯蔵施設用金属キャスクの安全設計及び検査基準: 2008」
FTC38-5-1 【中間報告】「低レベル放射性廃棄物の埋設地に係る埋戻し方法及び施設の管理方法」について [A3 版概要説明書]
FTC38-5-2 【中間報告】「低レベル放射性廃棄物の埋設地に係る埋戻し方法及び施設の管理方法」標準 (案) [本体及び解説]
FTC38-5-3 【中間報告】「低レベル放射性廃棄物の埋設地に係る埋戻し方法及び施設の管理方法」標準 (案) [附属書]
FTC38-6 【報告】原子燃料サイクル専門部会 分科会活動状況
FTC38-7 【報告】標準委員会の活動状況について

参考資料

FTC38-参考1 原子燃料サイクル専門部会委員名簿

FTC38-参考2 原子燃料サイクル専門部会における標準策定スケジュール案(至近3年)

5. 議事内容

(1) 出席者の確認

開始時、27名の委員のうち、代理委員を含め21名の出席があり、成立に必要な委員数(18名)を満足している旨が事務局から報告された。

(2) 前回議事録の確認

前回議事録(FTC38-1)が承認された。

(3) 人事について(専門部会人事)

事務局から、FTC38-2-1に沿って、荒木 勉氏(原子燃料工業(株))の退任が報告され、その後任として、大久保 和俊氏(原子燃料工業(株))が推薦されていること並びに5月末で任期満了となる坂下委員及び高橋委員については、再任の意向を示されている旨の説明があり、挙手による採決の結果、選任されることが承認された。

(4) 人事について(分科会人事)

事務局から、FTC38-2-2に沿って、LLW廃棄体等製作・管理分科会の高橋 邦明氏(日本原子力研究開発機構)の委員退任が報告され、その後任として目黒義弘氏(日本原子力研究開発機構)が新委員として選任された旨説明し、決議の結果、承認された。

(5) 人事について(役員の選出)

事務局から、部会長選任方法が説明された後、出席委21名による無記名投票が行われた。投票の結果、田中委員((部会長)19票、白票2票により田中部会長が再選出された。副部会長部及び幹事については、追って指名することとなった。

(6) “余裕深度処分対象廃棄体の製作に係わる基本的要件(案)”の標準委員会書面投票結果対応(審議)

LLW廃棄体等製作・管理分科会の阿部主査及び中瀬委員から、FTC38-3-1及びTCC38-3-2に沿って、“余裕深度処分対象廃棄体の製作に係わる基本的要件(案)”の標準委員会書面投票結果と反対意見への対応について報告が行われた。

決議の結果、反対意見への対応案が承認され、標準委員会各委員へ送付することとなった。

主な質疑事項

- ・ 4.1.1の“廃棄体内に自由水が残留するおそれがあるときは、次に示す条件及び方

法を適用し、容器を密閉する前に自由水の除去を図る。”に関して、廃棄体の定義が、“容器に封入した放射性廃棄物であって余裕深度処分に供するもの”とあり、自由水を除去したものが廃棄体なのではないか？

→自由水以外にも、容器、汚染拡大防止等の条件をクリアしたものが、廃棄体であるが、ここでは、そのまま、封入してしまうと自由水が残留するおそれがある場合は、封入した廃棄体とする（密閉する）前に、除去することを意味しているため、この表現で問題ない。

・ 専門部会の委員から提示された附属書の構成（附番等）に関しては、対応できているのか？

→委員からは、附属書（規定）が先で、附属書（参考）は後の方が良いとのコメントが毎回出るが、委員長から、JISZ8301の様式に準拠する方針としているため、附属書の構成は、現状は引用順で良いとの見解をいただいている。

また、附属書構成の理解促進のための表を解説に追記した。

・ 今日の標準案で、コメントに対応して、反対意見が解消したとして良いのか？

→反対意見を出された委員とは、個別対応によりその反対のご趣旨の確認等をさせて頂いており、その結果が本日の資料であり、本案であれば反対意見は解消できる見通しである。

・ 再投票になるのか？

→対応案で、反対意見が解消され、標準委員会で“編集上の修正”として承認されれば、標準委員会での公衆審査移行決議となる。この公衆審査移行決議で承認されれば公衆審査に入る。

(7) ”使用済燃料中間貯蔵施設用金属キャスクの安全設計及び検査基準：2008”の原子燃料サイクル専門部会書面投票結果(報告)

事務局から、FTC38-4に沿って、”使用済燃料中間貯蔵施設用金属キャスクの安全設計及び検査基準：2008”の原子燃料サイクル専門部会書面投票において、規制側委員より反対意見があり可決されていないこと並びに現在分科会で検討している反対意見対応案は、標準のTechnicalな修正になるものと予想されていることが説明された。さらに、今後の手続きについて、このままでは再投票となるが、再投票の決議には規約上挙手による決議が必要となるとの説明が行われた。審議の結果、スケジュールがタイトであること、本件のみのために再度1ヶ月以内に専門部会を招集するのは難しい等の理由から、今後の規約類の見直しも含め、今回は挙手による決議に換えてメール審議を行いたい旨標準委員会に提案することが決議された。

主な質疑事項

・ なるべく反対を解消するように対応してほしい。

→これまででもできるだけ反対意見を解消するように対応している。今回も同様に対応し

ている。

- ・ なぜ最終段階でこれだけ多くの意見が出るのか。規制側は分科会に参加しているのか。

→分科会が始まる段階から参加しており、かなりの対応、調整をしてきたが、調整しきれなかったものがこのような反対意見として出される結果になった。

(8) “低レベル放射性廃棄物の埋設地に係る埋戻し方法及び施設の管理方法” (中間報告)

LLW 埋設後管理分科会の吉原幹事から、FTC38-5-1～CC38-5-3 に沿って、“低レベル放射性廃棄物の埋設地に係る埋戻し方法及び施設の管理方法”について中間報告が行われ、決議の結果、標準委員会に中間報告することが承認された。

主な質疑事項

- ・ コンセプトはまとまっている。標準としては、法律以上のことまで規定している面もあるが、過大な要求にならないような工夫が見られる。
- ・ 周辺監視区域をいつまでに設定するかについて記載がない。周辺監視区域解除の時期と監視内容の変更（軽減）を対比して時系列で整理するとわかりやすくなる。
- ・ 管理段階の分類において、余裕深度処分では“建設・埋設段階”と“埋設後段階”とに分類されているのに対して、ピット処分では“第1段階”、“第2段階”及び“第3段階”に、また、トレンチ処分では“埋設段階”及び“保全段階”に分類されており、段階の名称もまちまちである。これらの整合をとれないか。

→ピット処分とトレンチ処分の段階管理の区分は、原子力安全委員会などで決められている考え方であるし、段階の名称も国の報告書等で使用されている用語であるから、無理に整合を取るよりも、現時点では、このままの方でよいと思われる。

(9) 原子燃料サイクル専門部会 分科会活動状況

事務局から、FTC38-6 に沿って、原子燃料サイクル専門部会 分科会活動状況が報告された。

(10) 標準委員会の活動状況について

事務局から、FTC38-7 に沿って、標準委員会の活動状況が報告された。

6. 今後の予定

未定。事務局から追って連絡することとした。

以 上